

解析を行って行きたいと考えている。

## E. 参考文献

- 1) 竹尾愛理、平賀幸枝、大西真澄、平井愛山：千葉県立東金病院における女性専用外来の歩み. 全国自治体協議会雑誌、41(7):803-811,2002
- 2) 天野恵子：Gender-specific Medicineの夜明け、女性における虚血性心疾患、村山正博監修、天野恵子、大川真一郎編集、医学書院、東京、2000



10		
1001		
3		
東京都		
小平市	16	
昭和46年10月7日	10	
平成15年2月2日	ビケン	
31	甲斐屋実業	
17尾	最近実績がひどい	
11		
1002		
3		
明治44年1月1日		
平成16年1月1日		
62		
12		
1003		
3		

## 千葉県における女性の健康支援の取り組み

研究協力者 松永 敏子 (千葉県健康福祉部健康増進課 女性の健康支援室 室長)

**研究要旨:**女性の健康支援を、千葉県が行政主導で取り組み始めてから 2 年度が経過した。初年度の取り組みの結果を踏まえ、更に①地域への浸透を図るため県内各保健所を核とした「女性の健康支援体制促進事業」の推進、②県内保健医療従事者に対する研修会の推進により、単に保健医療従事者自身の資質向上にとどまらず、県民に対する女性の健康に関する知識の啓発普及に役立てる、③女性外来や保健所における健康相談に女性たちが受診あるいは相談しやすい条件整備を図る、④シンポジウムの開催等により県内における関係機関・団体相互の連携を推進する、⑤疫学調査の推進により女性の健康に関するエビデンスを集積すること等について実施し、一定の効果を上げた。

### A. 研究目的

女性の健康支援の目標は、女性自身が自らの体の仕組みについて知り、必要な健康づくりができるようになること、それを支援する環境が地域内に整備されることである。そのため重要な要因である①相談者が身近に相談場所が得られること、②性差を踏まえた総合的な健康支援が、県内の保健・医療関係者や団体、あるいは住民自身も含む地域ぐるみの活動によって推進されることをねらいとして事業を展開した。その結果を解析し、今後の健康支援のあり方を検討する。

### B. 研究方法

各事業の結果の分析

### C. 研究結果

#### 1. 保健所における女性のための健康相談

事業：平成 14 年度は、全県立保健所 15 箇所において事業が実施された。平成 15 年度は、船橋市が、中核市に移行したことによって県立保健所における実施箇所は 1 ヶ所減になった。しかし、初年度、未実施の千葉市および船橋市が当該事業に取り組みを始めたことによって、千葉県内のすべての保健所において相談が受けられるようになり、結果として 16 ヶ所における開設となった。

県では、両市に対し、初年度の実施結果を、住民のニーズの高さを示す客観的資料として提示した。また、およそ四半期毎に開催する保健所担当者会議や保健・医療従事者対象の研修会には参加を積極的に呼びかけるなど、2 年度目を想定した働きかけを行ってきた。そのことが、両市の担当部局の事業推進に対する認識を高めることになり、且つ財政当局の理解を得る上で効を

奏したものと思われる。

県立保健所における健康相談は、更に地域住民のニーズに応えるため、各保健所が初年度の結果を踏まえ独創的に取り組むことにした。その結果、定例の設置にとどまらず、夜間、各種イベント時の開催、出前相談のように相談場所を移しての開催、市との共催による開催、コメディカルによる相談等、広がりが見られるようになった。

#### (1)平成16年1月末日の相談者数

平成16年1月末日の相談状況は、表1のとおりである。相談回数は226回、面談による相談者は464人、(開設当初からの累積数1,046人)電話のみの相談者は640人(開設当初からの累積数1,426人)であり、1ヶ月平均の相談者数は、ほぼ平成14年度と同じ状況である。

相談を担当する医師等の専門分野は、内科医(18人)、産婦人科医(14人)、心療内科医(1人)、精神科医(3人)、助産師(4人)である。

また、訴えの主な内容は表2のとおりである。女性外来と異なり保健所では、診断確定に必要な検査は実施していないため、あくまでも相談者の訴えを分類したものである。産婦人科領域に関する訴えについて精神的訴えが多い。各保健所では、精神保健福祉相談を別に開設しているが、ダイレクトにその相談は受けにくいようで、当該相談を窓口として、改めて精神保健福祉相談につながりを持つという状況が見られる。又、その他の訴えの中には、身体症状の背景にDVや夫婦関係のゆがみ等が潜んでいるもの、排泄障害等、多岐にわたるものが含まれるが、人目が気になり相談しにくい内容であっても、当該相談は気軽に利用で

きるといった面が伺われる。

#### (2)健康相談に対する評価

##### —アンケート調査結果—

面談による相談終了後には、相談者の満足度などを評価するためにアンケート調査を実施しており、約85%の相談者から回答を得ている。

平成15年4月から16年1月まで実施したアンケート調査(389人)の集計結果は次のとおりである。(表3)

##### ①保健所の健康相談を選んだ理由

「保健所の健康相談を選んだ理由」としては、8割弱が「女性医師なので相談しやすい」、約半数が「ゆっくり時間をかけて相談にのってくれる」と回答していることから、女性医師が時間をかけて相談をすることが大きな理由であることが伺える。

また、「病院と違って相談しやすい」と「病院に行くべきか、どの科を受診すべきか迷ったので相談した」をそれぞれ約4割の者があげており、敷居が高いとされる医療機関を受診することにためらいを感じる女性に活用されていることが伺える。

##### ②健康相談の満足度

「今回の健康相談に満足したか」については、女性医師に相談した者は「満足」と「ほぼ満足」を合計すると99%が満足したと回答しており、非常に高い満足度を示している。また、医師以外の専門職(保健師・助産師・薬剤師等)に相談した者も9割が満足したと回答している。

##### ③健康相談の継続への希望

また、「今後も女性のための健康相談を継続してほしいか」については、ほ

ば全員が継続してほしいと回答し、高い指示を得ている。

#### ④相談相手として希望する職種

「健康相談を継続してほしい」と回答した者に対し、「誰に相談したいか」をたずねたところ、75%が「今後も医師に相談したい」、20%が「他の職種も加えた方がよい」と答えている。

#### ⑤希望する医師の性別

さらに、「今後も医師に相談したい」と回答した者に「女性医師がよいか。それとも、女性の健康支援に理解のある男性医師でもよいか」をたずねたところ、8割強が「女性医師がよい」とし、1割強が「理解がある男性医師でもよい」と回答している。

## 2. 女性専用外来の拡大

千葉県が進める女性の健康支援策の第一歩として、平成13年9月に、都道府県立病院としては全国はじめての女性専用外来を開設して以来、県内各地の女性たちからの強い要望に応え、公立や民間の病院に女性専用外来の設置を促進するため、平成14年度には施設・設備や人件費に対する補助制度を創設した。

これにより、平成14年度に6カ所、平成15年度に3カ所の医療機関に新たに女性専用外来が開設され、現在では県内の3カ所の県立病院及び7ヶ所の公立・民間病院に拡大された。

平成15年12月末日現在、県内10ヶ所の女性専用外来において、延べ6,500人近くの女性が受診し、450人の待機者がいる状況である。(表4)

また、これらの受診者の主な訴えを見ると、約4割が更年期障害の訴えであり、婦人科

疾患の訴え及び精神科疾患に関する訴えがそれぞれ2割弱となっている。(表5)

## 3. 女性の健康支援体制促進事業

### ー県内各保健所を核としての

#### 地域ネットワークの構築ー

女性のライフステージを通じて、その健康を自己管理できるようにするためには、行政や地域の様々な保健医療サービスを担っている関係者が、地域全体で女性の健康を支援するネットワークを構築することが大切である。

このため、平成14年度には、2カ所の保健所において、地区医師会、歯科医師会、薬剤師会、助産師会、看護協会、産業保健関係者、教育関係者、市町村、住民などで構成される協議会を設置し、地域全体で女性の健康支援のあり方について検討していくモデル事業を実施、その成果を基に平成15年度からは、全保健所において女性の健康支援ネットワーク構築のため女性の健康支援体制促進事業として取り組んだ。

(表6)

### 1)モデル事業を実施したS保健所における取り組み及びその成果

#### (1) 取り組み

- ①協議会を設置、協議会のなかに専門部会として、思春期部会(学校保健関係者等)、更年期部会(助産師・産業保健関係者等)を立ち上げ検討。
- ②健康づくり担当者の研修会を開催した。
  - ・女性の健康づくり支援事業担当者へのヘルスプロモーション研修
  - ・思春期、性教育を担当する学校保健担当者の研修
  - ・思春期ピアカウンセラー養成講座

③事業所と協力し、女性職員を対象とした健康づくり意識調査を実施した。

## (2) 成果

①地区助産師会の後押しにより、管内医療機関に「助産師外来」が開設された。

②女性の健康相談において、医療機関への紹介状の発行や医療への受診勧奨等がスムーズになり、保健所の相談が終了しても医療機関で治療や相談を継続していく人が多くなった。

③保健所、学校保健が連携して、中学校及び高等学校において思春期性教育講演会を実施した。また、段階を踏んだ早期性教育の必要性が共通認識され、15年度は小学校1校において性教育を実施することになった。

④思春期部会において、14年度にピアカウンセラー養成講座を検討した結果、15年度からの事業実施につながった。

⑤事業所女性職員意識調査をもとに、15年度は産業保健部会を立ち上げる予定であり、課題である産業分野とのネットワーク構築に向け準備中である。

⑥保健所管内における女性の健康支援マップができた。

このように、協議会を契機として、地域の様々な関係者が、性差を考慮した女性の健康支援の重要性を自らの課題として認識するとともに、思春期から高齢期までの継続した健康教育や健康相談、医療サービスの提供、事後指導のあり方について、自分たちの果たせる役割を考えるきっかけとなり、地域における女性の健康支援の底上げが図られるようになった。

## 4. 女性のための健康教室

平成14年度は26回開催し、1,000名を超える女性が参加した。平成14年度における各教室の講師は外部講師が多かったが、平成15年度に入り、その数は減少し保健所職員あるいは嘱託等による研修会が増えている。これは、事業開始当初から、県民に対する啓発普及のための講習は、保健師等が担えるように意識的に従事者研修を実施してきたことの成果であると考えられる。各健康教室のテーマは、初年度に引き続き「更年期の上手な乗り切りかた」が最も多い。(表7)

## 5. 保健医療従事者の研修

### (1) 研修会、講習会の開催

性差医療を推進するためには、保健医療に携わる者が、男女の違いを十分認識し、患者の症状や疾患だけでなく、その背景や家族関係なども考慮して、患者を全人的に診察する視点を持つことが大切である。

このため、千葉県では、県内医療機関の医師や看護師、県や市町村の保健師などの保健医療従事者を対象とした研修会を年に何回か開催し、関係者全体の理解が深まるよう努めてきた。

平成15年3月には、WHO神戸センター主催・千葉県後援の「国際シンポジウム～男女差に敏感な医療」を開催し、国内外の研究者や行政関係者が性差医療について明らかになった根拠や事例について発表や検討を行い、好評を博した。

なお、平成14年度及び15年度に開催した主な研修会・講習会は(表8)のとおりである。

平成15年度は、女性医療に携わる医師やコメディカルスタッフに限定することなく、

広く女性医療に関する知識の普及を図ることを目的に、医師会や薬剤師会、看護協会や日本助産師会等関係団体と共催し実施した。また、参加しやすいように会場を遠隔地にも設け、開催時間も夜間とした。

その他、女性専用外来、保健所における健康相談に携わっている医師を対象とした情報交換会の開催や、保健師と医師による情報交換なども実施したが、医師たちの診療にあたっての課題等を浮き彫りにする上で、又、保健所と外来の連携の必要性を確認する上で、有効であった。

## (2)「女性の健康シンポジウム」の開催

全国に先駆けて女性の健康支援に取り組む3年目を迎え、これまで取り組んできた女性の健康支援の成果と課題について検証しようと、平成16年1月に、県内の保健医療従事者や行政関係者が一同に会するはじめての「女性の健康シンポジウム」を開催した。(表9)

女性専用外来や保健所の健康相談窓口、看護協会など7機関がこれまでの事例を発表するとともに、「あなたの笑顔が一番～地域で支えるネットワーク」をテーマに、医師や患者、マスコミ、行政の保健医療担当者らがそれぞれの立場から意見交換を行うパネルディスカッションを行った。

シンポジウムでは、「性差医療がこれだけの広がりを見せているのは、女性が自分たちの健康をもっときちんとみてほしいという声によるものである」「県の取り組みが生涯における女性の健康支援を考える良いきっかけになっている」「行政や医療の関係者と一般の女性との間の情報や知識の隔たりは大きく、もっと情報を発信する必要がある」「女性の健康を支援するという目的で、

今まで連携したことがなかった職種や職域で、ヒューマンネットワークが広がりつつある」などの意見が出された。

## 6. 疫学調査

千葉県では、性差を踏まえた保健医療を推進するための基礎データを収集するために、平成14年度に、千葉県衛生研究所長である天野恵子氏を座長した15人の専門家で構成される「疫学調査検討会」を設置し、調査研究項目について検討を重ねてきた。

そして、県民の健康状態や生活実態を明らかにするとともに、本県の健康課題について具体的な政策提言につながることをねらいとした、5つの調査研究を実施することとした。15年度から調査に着手している主な調査の概要は次のとおりである。

### (1) 県民健康基礎調査

県民の健康状態や健康に関する関心・意識、健康に影響を与える様々な社会的・経済的背景を調査し、県民の健康を左右する諸条件や課題を明らかにするために、15歳から74歳までの県民6,000名を対象とした無作為抽出によるアンケート調査を実施した。平成15年11月から12月にかけて郵送により実施し、約48%を回収して現在集計・分析中である。

### (2) 検診データ収集システムの構築

現在、老人保健法に基づいて、県内79市町村で実施されている基本健診の年間受診者は50万人いるが、その検診結果が健康施策に十分に活用されているとは言いがたい状況にある。

このため、基本健診の結果を分析し、各地域の相互比較を可能にするため、千葉県衛生研究所に各市町村実施の健診データを



集積し、データベースを構築することにした。市町村ごとの検査方法の違いにより異なる検査値については、千葉県検査技師会の協力を得て標準化プログラムを開発、標準化する。

本年度、県内全市町村に希望調査や説明会を行って呼びかけたところ、15年度に17市町村、16年度に9市町村、17年度に4市町村が参加することとなった。

### (3) 鴨川市・天津小湊町おたっしや調査

生活習慣と病気の関連を明らかにし、人々の暮らしの中に潜んでいる生活習慣病の要因を明らかにするために、県内南部に位置する鴨川市・天津小湊町の40歳以上の全住民23,000人を対象とした大規模なコホート調査を、本年度から20年度にかけて実施する。

この地域をフィールドとしたのは、①高齢化率が15.7%（平成15年4月現在）である本県において、鴨川市は27.5%、天津小湊町は31.3%と高齢化率が高く、県内で先行して高齢社会における健康問題に直面していること、②市町が安房医師会と協力して約30年間②わたり定期検診を実施しており、その健診結果が蓄積されていること、③人口の流入がが少ない地域であること、などが理由である。

具体的には、健康状態や生活習慣に関するアンケート調査と、昭和62年度及び15年度の健診結果、介護保険の認定状況の関連について、個人ごとに突き合わせて分析する。また、15年度の健診受診者については、平成20年まで毎年、検診結果と介護保険の認定状況を追跡調査し、20年度には再度、健康状態や生活習慣に関するアンケート調査を実施するものである。

初年度の調査としては、平成16年1月下旬から2月上旬にかけて、アンケート調査を郵送により実施し、現在、集計・分析中である。

このほか、近年問題となっている子宮頸がんの若年化に関するHPV感染の実態について、子宮ガン検診受診者の提供する検体を使用した調査を行う。

また、女性専用外来および保健所女性健康相談の各相談者に対しアンケート調査を行い、その調査結果を集計・分析することにより、現状の性差医療および保健サービスの問題点を明らかにする調査を実施している。

わが国では、大学などの研究機関が国の補助金を使って疫学調査に取り組むものが多く、このように、都道府県レベルで疫学調査に取り組む例は少ない。

これらの疫学調査から、性差や女性の健康課題に対する効果的なアプローチが明らかとなり、本県の施策展開につながるだけでなく、日本全国にも貴重な資料が提供できるものと期待している。

## 7. 県内外への波及

### (1) 県内への波及

平成13年9月に県立東金病院に女性専用外来を開設して以降、設置促進を支援する補助制度を活用して、現在では県内の女性専用外来は、県立及び公立・民間病院を合わせて10箇所まで拡大された。

また、保健所における女性の健康相談は、県保健所だけでなく、政令指定都市である千葉市や中核市である船橋市においても開設された。

さらに、医療機関独自で開設している女性外来は3ヶ所、「助産師外来」や、看護協

会による「まちの保健室」、携帯電話を活用した思春期相談、など、県の取り組みがきっかけとなって、各職域がそれぞれの立場で女性の健康支援に取り組んでいる。

## (2) 県外への波及

女性専用外来をはじめとする、本県の性差医療や女性の健康づくりについての取り組みは、先駆的に事例として各マスコミの取材を受けたほか、東金病院や本庁には、全国の病院や行政関係者からの視察が相次いだ。

本県での女性専用外来の高い評価によって、国立病院や公立病院への女性専用外来の開設が相次ぎ、最近では、民間病院や診療所などにも女性専用外来が拡大しており、平成 16 年 1 月現在で全国の女性専用外来は 110 箇所を超えるなど、大きな流れになっている。(表 10)

さらに、厚生労働省が平成 15 年 8 月に公表した「医療提供体制の改革のビジョン」において、当面進めるべき施策の一つに「女性専門外来を設置し、更に、女性の健康問題に係る調査研究などを推進し、女性の患者の視点を尊重しながら地域における必要な医療が充実される体制の確保に取り組む。」という一項目が明記された。このように、一地方自治体である千葉県が取り組んできた女性の健康支援施策が大きくなるとなり、国の施策として位置づけられるようになった。

## 8. 今後の課題

本県が女性の健康支援に取り組み出して未だ 3 年目、本格的に始動して 2 年目であり、今後の発展のためには様々な課題がある。

### (1) 性差医療の充実

現在、県内の女性専用外来は 10 箇所で開催されており、概ね県下全域がカバーされている。また、保健所の女性の健康相談も、14 カ所の県保健所、千葉市保健所、船橋市保健所と県内にあるすべての保健所で開設されており、面としての広がり担保されているといえる。

今後は、受診者や相談者の満足度をより一層あげるため、女性の立場に配慮した医療や、専門の垣根を越えた連携による医療など、受診しやすい環境づくりや内容の充実、質の向上に努めていくことが課題である。

### (2) 性差医療に携わる人材の育成

そのための最大の課題は、性差医療に携わる保健医療従事者や行政関係者等の人材の育成である。

女性専用外来や健康相談は、内科、産婦人科、精神科など多岐にわたる疾患を総合的に診療や相談を行うため、常に新しい知識を得る必要がある。

平成 14 年度末に、保健所の健康相談担当医師にアンケート調査を行い、今後希望する研修テーマを聞いたところ、「加齢とともに変化する女性の体の最新情報」「精神科領域の知識」「閉経後の性交痛などへのアドバイス方法」「専門家の中でも議論が分かれている諸問題の最新情報（例えばホルモン補充療法など）」などを希望する意見があった。これらの意見を踏まえ、今後は、性差医療に携わっている保健医療従事者をサポートする研修のより一層の充実に努めていきたい。

さらに、後から続く人材を育成するためには、医学教育の中に性差医療の考え方を

導入することが必要である。

千葉県では、平成16年4月から、8つの県立病院群方式による卒後臨床研修を開始するが、選択科目の一つに「性差を考慮した医療」研修コースを全国に先駆けて設け、性差医療に理解と関心を持ち、患者の心と体を総合的に診療できる人材を育成する体制の整備を進めている。

### (3) 医師とコ・メディカルスタッフの連携

女性専用外来等の受診者や相談者は、多岐にわたる症状や訴えを持っている場合や、疾患の背後に介護や子育てなどの様々な社会的、経済的な問題を抱えている場合が多い。

このため、医師だけでなく、保健師や看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士などのコ・メディカルスタッフがそれぞれの立場から、患者を全人的に診療することを目指して、専門の垣根を越えた連携体制を構築することが必要である。

### (4) 地域のネットワークづくり

また、女性が健康の自己管理ができるようにするためには、保健所の健康相談窓口と女性専用外来との連携や、女性専用外来と地域の専門医との連携が緊密に図られ、相談事業から医療へと継続的に支援していくことが大切である。

さらに、医療現場・地域保健・学校保健・産業保健・行政がネットワークを組み、女性のライフステージに応じてサポートできる体制を構築していくことが今後の課題である。

## D. 結語

人生50年と言われた時代から平均寿命が30年も伸び、この間をいかに健康で生き生きと過ごすかが問われている。なかでも女性が、ホルモンに守られなくなる閉経以降も自己の健康を管理できるようになることは、健康で豊かな長寿社会を実現するうえで不可欠である。

疾病別や臓器別ではなく、患者の心と体を、社会的・経済的背景を含めて全人的にみるという性差医療は、新たな形の保健医療サービスであり、「医療革命」であると言えるだろう。そして、このような良質な保健医療サービスは、女性のみならず全ての人を求めるものである。

千葉から始まり全国に広がりつつある性差医療が、さらに発展することを願うとともに、本県における女性の健康支援がより一層充実するよう、今後も努めていきたい。

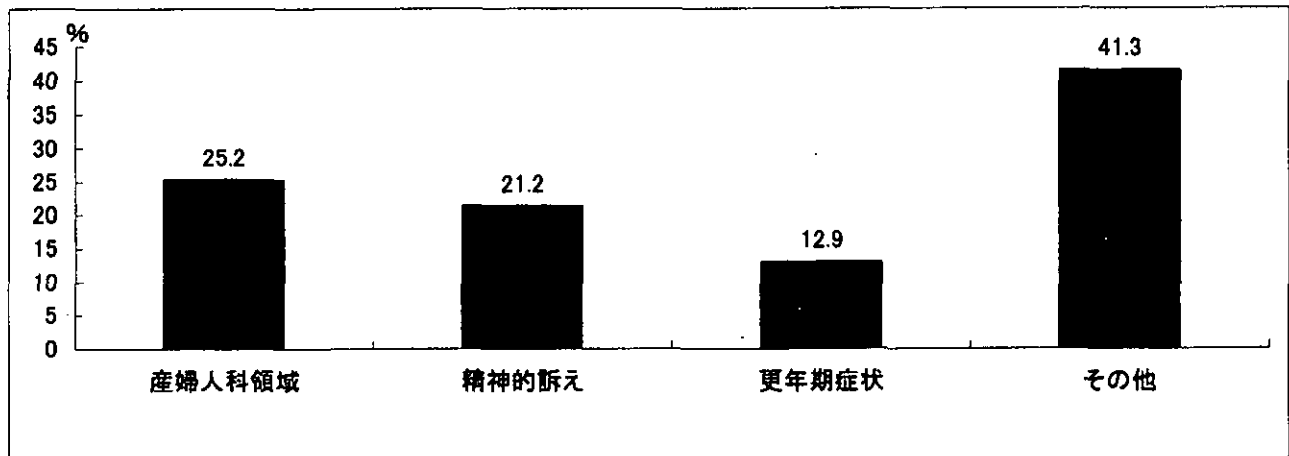
表1 保健所における「女性のための健康相談実施状況」

保健所名	平成14年5月～平成15年3月末日						平成15年4月から平成16年1月末日					
	相談回数(回)		延べ相談者数(人)			備考	相談回数(回)		延べ相談者数(人)			備考
	月	年間	合計	面談	電話のみ		月	年間	合計	面談	電話のみ	
1 習志野	2～4	22	90	56	34		2～4	28	166	58	108	・夜間相談(2回/年) ・他市へ出張相談(5回/年) ・コメディカル相談
2 船橋	2	22	113	29	84		平成15年度から中核市移行により市実施					
3 市川	2	14	117	29	88		2	11	99	18	81	
4 松戸	3	35	181	64	117	面談は、6月から開始	3	24	107	44	63	
5 柏	2	23	172	49	123	面談は、4月から開始	2	20	115	35	80	
6 野田	1～2	11	58	26	32		2	20	115	35	80	
7 佐倉	3～4	21	174	77	97		2	20	115	35	80	
8 香取	1	11	53	26	27		1	8	30	22	8	
9 海匝	1～2	11	34	22	12		1～2	15	54	17	37	・八日市場地域保健センター(6回/年)
10 山武	2～3	21	117	61	56		2～3	20	104	51	53	・大網白里町へ出張相談(6回/年)
11 茂原	2	18	62	27	35		2	16	74	26	48	
12 勝浦	1	11	44	27	17		1	10	39	23	16	
13 安房	1	11	62	29	33		1	10	49	21	28	
14 木更津	1	11	47	24	23		1	8	43	28	15	・コメディカル相談
15 市原	2	19	44	36	8		2	15	33	25	8	
合計		261	1368	582	786				1104	464	640	内科(18人) 産 婦人科(14人) 産 心療内科(1人) 精 神科(2人) 助 産師(4人)

平成15年4月から千葉市においても実施開始

表2 保健所における「女性のための健康相談窓口」主な訴え〔電話含む〕

〔平成16年 1月31日現在〕



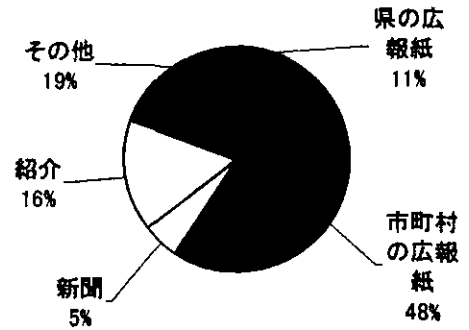
<p><b>産婦人科領域に関する訴え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生理不順・無月経・月経困難症などの月経に関すること</li> <li>・ 子宮内膜症・子宮脱・子宮筋腫・卵巣脳腫などの疾患</li> <li>・ 不妊、妊娠、妊娠中の合併症、人口妊娠中絶・避妊など妊娠に関すること</li> </ul>	429人 [25.2%]
<p><b>精神的訴え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ うつ、不眠、パニック症候群、摂食障害、精神不安、イライラ、育児不安等</li> </ul>	350人 [21.0%]
<p><b>更年期症状に関すること</b></p>	220人 [12.9%]
<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳がん、乳がん検診</li> <li>・ 尿失禁・頻尿等の排尿障害</li> <li>・ HRT、副作用等の服薬に関すること</li> <li>・ 性感染症、性生活</li> <li>・ 高脂血症など生活習慣病に関すること</li> <li>・ アレルギー様症状に関すること</li> <li>・ DV</li> <li>・ その他、分類不可の不定愁訴</li> </ul>	704人 [41.3%]

表3 「女性のための健康相談」アンケート 集計結果 (H15年4～1月実施 389人分)

I あなたは、今回の「女性医師による健康相談」をどのように知りましたか。

(複数回答あり) 392

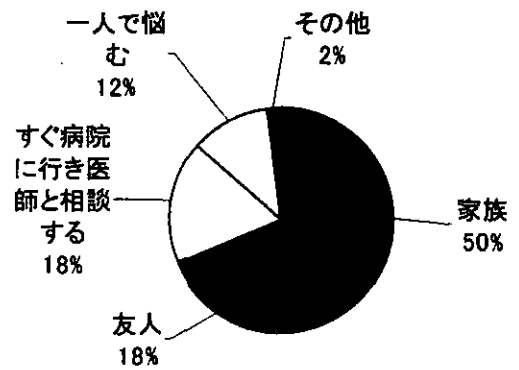
県の広報紙	43
市町村の広報紙	188
新聞	21
紹介	64
その他	76



II あなたは、主に健康について誰に相談しますか。

(複数回答あり) 468

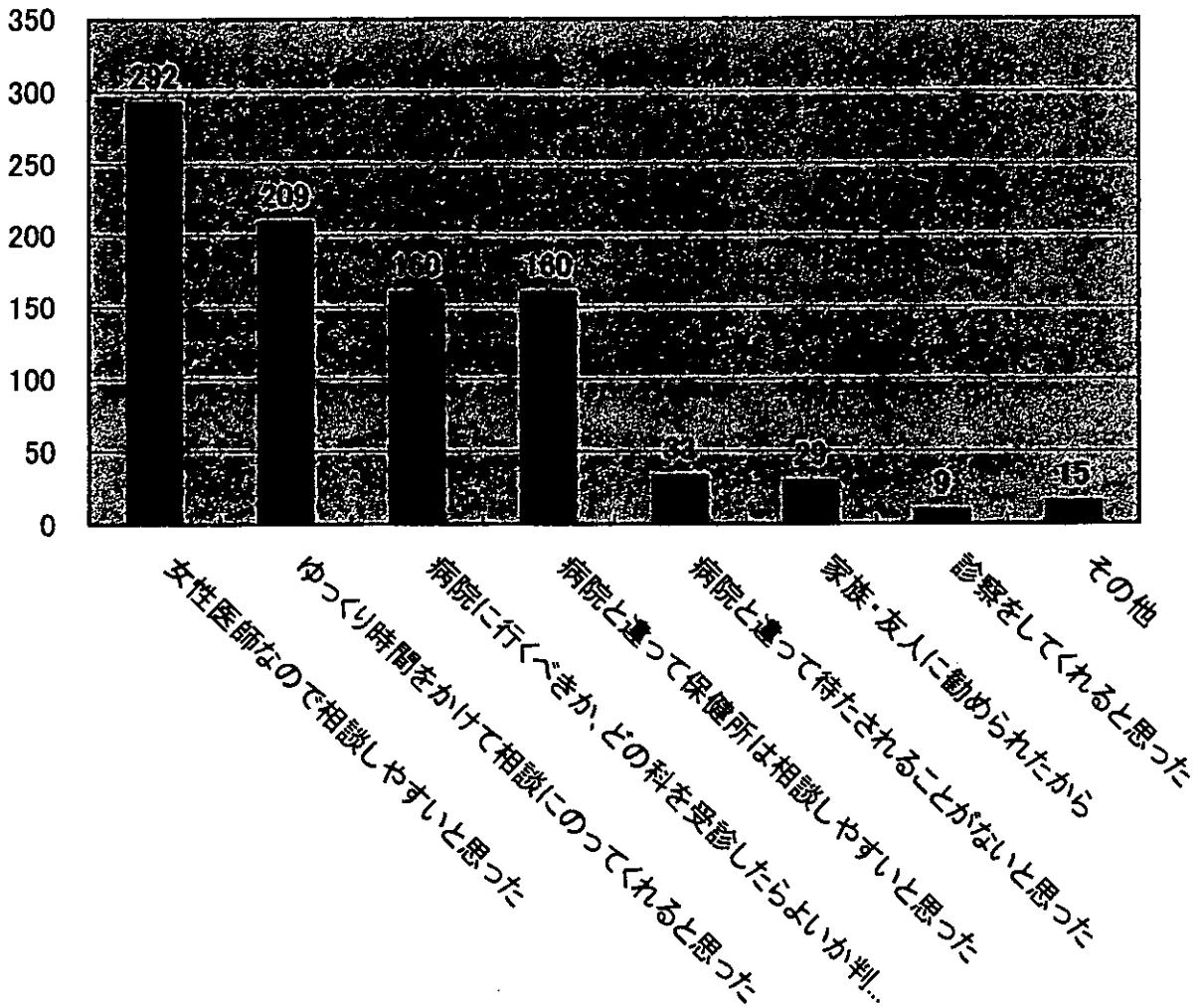
家族	234
友人	84
すぐ病院に行き医師と相談する	85
一人で悩む	55
その他	10



Ⅲ あなたが、今回この相談を選んだ理由は、何ですか。(複数回答可)

389

女性医師なので相談しやすいと思った	292
ゆっくり時間をかけて相談にのってくれると思った	209
病院に行くべきか、どの科を受診したらよいか判断に迷ったので相談してみようと思った	160
病院と違って保健所は相談しやすいと思った	160
病院と違って待たされることがないと思った	33
家族・友人に勧められたから	29
診察をしてってくれると思った	9
その他	15



V 今後も「女性のための健康相談」を続けて欲しいですか

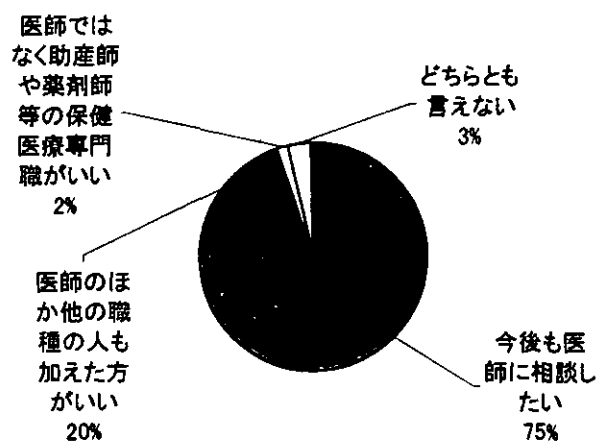
379

はい	375
いいえ	4

v-1 「はい」と答えた方にお聞きします。相談相手は、誰に相談したいですか。

(複数回答あり) 372

今後も医師に相談したい	280
医師のほか他の職種の人も加えた方がいい	73
医師ではなく助産師や薬剤師等の保健医療専門職がいい	7
どちらとも言えない	12



v-2 「今後も医師に相談したい」と答えた方にお聞きします。

医師は、女性がいいですか。それとも女性の健康支援に理解のある男性医師でもいいですか。

(複数回答あり) 276

女性医師がいい	229
女性の健康支援に理解のある男性医師でもいい	38
どちらとも言えない	9

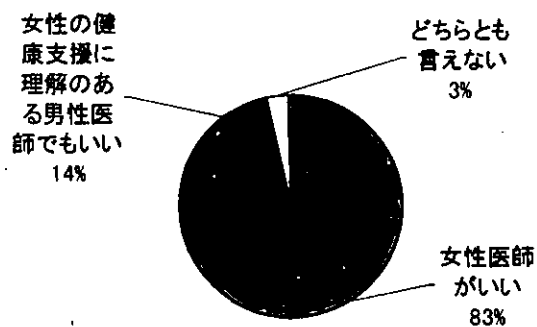




表3-2 平成15年度保健所における「女性のための健康相談窓口」相談実績

平成16年1月末日現在

	保健所名	相談回数(回)		※延べ相談者数(人)			備 考
		月	年間	合 計	面 談	電話のみ	
1	習志野	月2~4回	28	166	58	108	・夜間相談(2回/年) ・他市へ出張相談 (5回/年) ・コメディカル相談
2	市川	月2回	11	99	18	81	
3	松戸	月3回	24	107	44	63	
4	柏	月2回	20	115	35	80	
5	野田	月2回	20	115	35	80	
6	佐倉	月2回	20	115	35	80	
7	香取	月1回	8	30	22	8	
8	海匝	月1~2回	15	54	17	37	・八日市場地域保健センター (6回/年)
9	山武	月2~3回	20	104	51	53	・大網白里町へ出張相談 (6回/年)
10	茂原	月2回	16	74	26	48	
11	勝浦	月1回	10	39	23	16	
12	安房	月1回	10	49	21	28	
13	木更津	月1回	8	43	28	15	・コメディカル相談
14	市原	月2回	15	33	25	8	
	合 計		225	1143	438	705	内科(人) 産婦人科(人) 心療内科(人) 精神科(人) 助産師(人)

※ 平成15年4月から平成16年1月末日までの間(10ヶ月)の合計数である。

表4 千葉県における「女性専用外来」実施医療機関診療状況

[平成15年12月31日現在]

病院名		開設年月	外来診療日	開設時間	受診者延べ数	予約者数
県立	東金病院	平成13年9月	毎週水曜	13:00~17:00	4,173人	66人
			毎週木曜	13:00~17:00		
			毎集土曜	9:00~12:00		
県立	循環器病センター	平成14年6月	毎週水曜	9:00~17:00	751人	6人
	佐原病院	平成15年2月	隔週水曜	9:00~14:00	205人	34人
公立・民間	君津中央病院	平成14年4月	毎週木曜	13:30~16:30	387人	25人
			毎週月曜	13:30~15:30	191人	10人
	亀田総合病院	平成14年6月	毎週木曜	13:30~16:00	596人	54人
	国保旭中央病院	平成14年9月	毎週水曜	13:30~16:00	353人	42人
	順天堂浦安病院	平成14年11月	毎週水曜	13:00~17:00	633人	92人
	東京歯科大	平成15年6月	第1・3火曜	13:00~17:00	80人	10人
	市川総合病院		第2・4水曜	13:00~17:00		
	東京慈恵会柏病院	平成15年9月	毎週月曜	13:30~16:00	48人	36人
船橋市立医療センター	平成15年10月	毎週月・水	9:00~12:00	96人	45人	
合計					6,475人	451人

表5

上記10病院における受診者の主な訴え

[平成15年12月31日現在]

受診者の主な訴え（疾患別分類）	平成15年度累計	左のうち県立病院のみ （平成14年3月まで）
更年期障害 （のぼせ、ほてり、頭痛、肩こり、動悸 等）	1,568人（38.0%）	479人（53.6%）
婦人科疾患 （月経不順、子宮内膜症、不妊 等）	741人（18.0%）	113人（12.7%）
精神科疾患 （不安、不眠、うつ状態 等）	704人（17.0%）	36人（4.0%）
その他 （高脂血症、骨粗しょう症、分類不可の不定 愁訴 等）	1,118人（27.0%）	265人（29.7%）

表6 女性の健康を支える地域ネットワーク

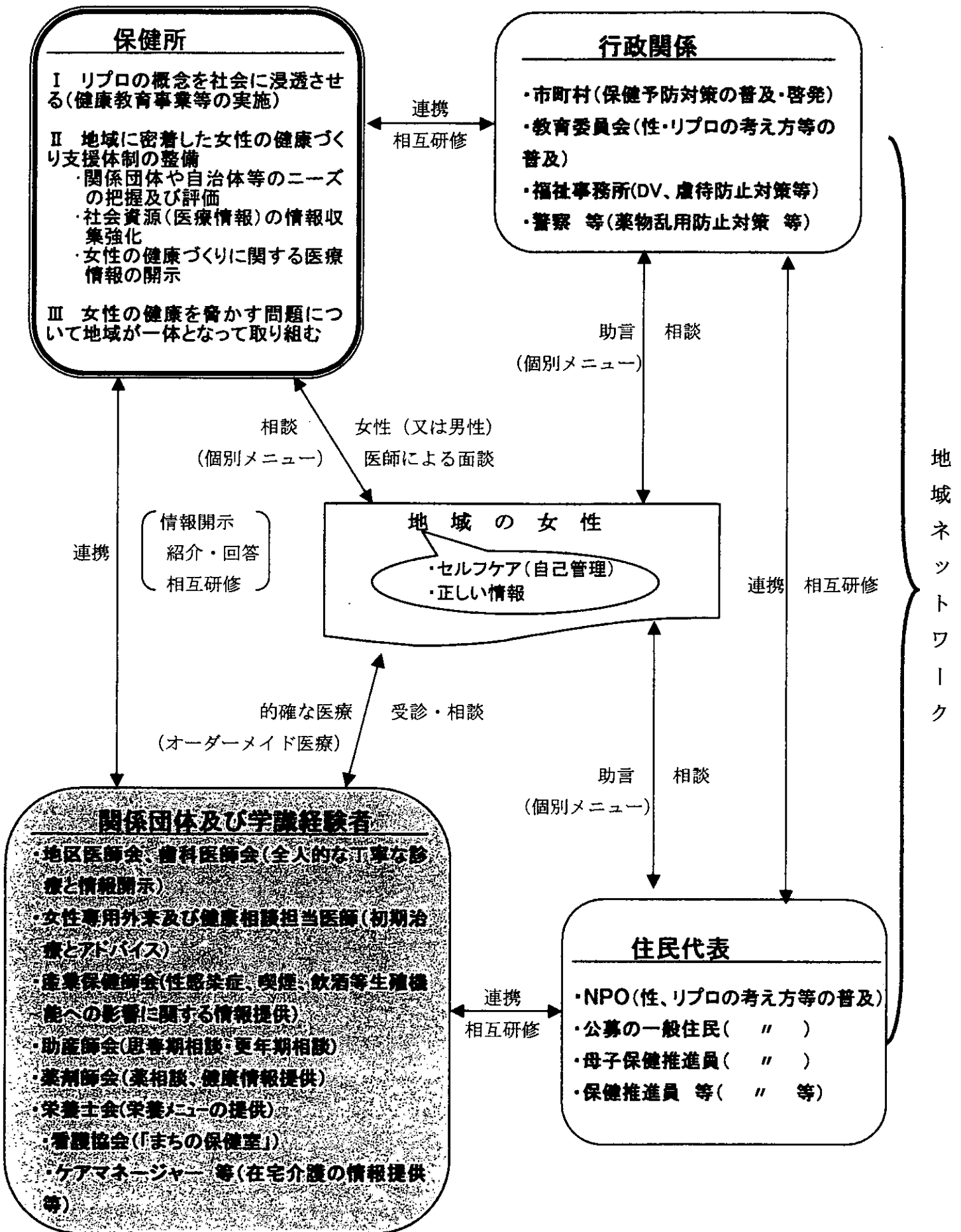


表 7-1 平成14年度 保健所の「女性のための健康教室」

	保健所名		テ ー マ	参加者数(人)
1	習志野	①	輝く更年期・体験談	30
		②	骨粗鬆症予防の食事について 「更年期の体操について」と骨盤低筋運動の体験	20
2	船橋	①	女性に多い症状を乗り切るための基礎体力づくり 実技:持久力、調整力、筋力、柔軟性を養うための運動	15
		②	更年期に変わる女性のこころとからだ	24
		③	女性のがんを予防し更年期を健やかにすごす	80
3	市川	①	女性の健康支援事業の現状と課題、女性にとって更年期とは	17
		②	女性の健康に係る情報提供、女性のからだところ	38
4	松戸	①	心疾患と女性ホルモン、女性と高脂血症	85
5	柏	①	骨粗鬆症と女性の健康	66
6	野田	①	ナイスミディライフを過ごすために	14
		②	ナイスミディライフを過ごすために	12
7	佐倉	①	更年期を上手に乗り切ろう 更年期の体と心の変化及びその症状・治療・予防	40
8	香取	①	更年期を上手に乗り切ろう	23
		②	更年期を上手に乗り切ろう	28
9	海匝	①	40歳代からの女性のからだ	27
10	山武	①	女性のこころとからだの健康～更年期のこころの病気に早めに手当てを	46
		②	知って安心！女性の健康知識～婦人科の病気その症状と治療	36
11	茂原	①	更年期を正しく理解し、快適に過ごすために 家庭でできる楽しい運動	30
12	勝浦	①	健康ちば21の啓発 肥満予防・乳がんの自己検診	70
		②	検診等からみた管内の女性の健康問題 40歳代からの女性の体と健康、高脂血症予防とカルシウムたっぷりの食事及びウォーキング	46
		③	女性の健康づくり教室(思春期編) 子供たちの性について気軽に話し合しましょう	120
		④	検診結果から見た女性の健康、これからの老年期に向けて、女性ホルモンの作用と減少への対策	21
13	安房	①	女性の健康とメンタルヘルス、女性の健康と女ホルモンの重要な働き	86
		②	女性ホルモンとコレステロール、更年期からの女性の健康について	20
14	木更津	①	更年期からの女性の心と体	38
15	市原	①	女性の健康づくり～ストレスは病気になる?! 日常に手軽にできる体操～肩こり・腰痛～	29
	合計		26回	1061